おんがく広場 第132号

令和3年(2021) 5月16日(日)

Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊

発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一

連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

文化芸術活動は不要不急ではない　東京都の自粛要請、線引きに疑問

文化庁長官が東京都の文化施設に対する休館要請を受け「文化芸術活動に関わるすべての皆様へ」と題する声明を5月11日発表しました。

声明では、「**感染拡大のリスクをできる限り抑えながら、文化芸術活動を続けていくことは不可能ではなく、休止は、あらゆる手段を尽くした上での最終的な手段であるべき**」として、可能な限り文化芸術活動の継続を呼びかけています。声明文PDFは文化庁の下記URLでご覧ください。

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/pdf/message202105.pdf

都は都立施設の休館に併せて国立の施設についても同様に休館を要請しました。例えば、国立科学博物館上野本館では5月12日より再開の予定でしたが、5月31日まで休館を延長しました。科博は筆者もときどき利用しますが、事前予約制で人数制限され、感染予防策にとくに問題はありません。

文化庁　文化芸術活動の支援拡充

文化庁は文化芸術活動に様々な支援事業を行っています。イベント開催制限措置の長期化、無観客化要請等によるキャンセル料支援の拡充を図る「ARTS for the future !」事業を展開しています。

新たに追加された補助対象事業は、公演等の開催に関連するキャンセル費用、キャンセル料支援事業では対象とならない任意団体の活動や、美術館・博物館の企画展等について、キャンセル料支援を別枠とするとともに、支援上限を１団体当たりではなく１公演等当たり2500万円となったとのことです。

事業予算は250億円。文化庁としては過去に例のない規模で、4月下旬から申請を受け付け、5月中旬から交付を始めています。ほかにも、文化施設への支援や、18歳以下を無料とする公演を支援する事業なども行われています。

ARTS for the future！事業の概要

事業の概要	新型コロナウイルスにより、文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体において、感染対策を十分に実施した上で、積極的に公演等を開催し、文化芸術振興の幅広い担い手を巻き込みつつ、「新たな日常」ウィズコロナ時代における新しい文化芸術活動のイノベーションを図るとともに、活動の持続可能性の強化に資する取組を支援する。 （令和２年度第３次補正予算額　２５０億円）
対象となる活動	（１）不特定多数の者に公開する公演や展覧会等の活動を行い、チケット収入等を上げることを前提とした積極的な活動 （２）2021年1月8日以降に緊急事態措置区域とされた都道府県で実施を予定していた公演活動等（キャンセルになった場合の開催しなくても発生してしまった経費）及び動画作成。（経過措置及びまん延防止等重点措置区域における一部取組みを含む。）

都の休館要請に合理性はあるか？

都は5月12日から緊急事態措置を一部変更し、それまで「無観客開催」の要請対象だった劇場、テーマパークなどを入場制限を条件とした開催要請に緩和していますが、問題はそこに合理的な根拠はあるのかということです。劇場が使えればとりあえず音楽芸術分野の関係者はひと安心ですが、矛盾を孕(はら)んだ行政措置を見逃すことは将来に禍根を残すことになります。

声明では、博物館において感染予防策を講じれば「**リスクを最小限にしながら開館することが可能**」で「**実際に、このような感染症対策が適切に講じられている公演や展示において、来場者間で感染が広がった事例は報告されていません**」としています。

この声明は「**文化芸術活動の担い手や生業にしている人だけでなく、鑑賞する人々も含めて、全ての国民に向けたもの**」であり、「**文化芸術活動は、断じて不要でもなければ不急でもない。このような状況であるからこそ、社会全体の健康や幸福を維持し、私たちが生きていく上で、必要不可欠なものであると確信している**」と締めくくっています。

全日本おかあさんコーラス支部大会中止

全日本合唱連盟は、新型コロナウイルス感染の収束が見通せないとして「**第44回全日本おかあさんコーラス支部大会**」の開催を中止しました。なお、８月21日(土)・22日(日)の全国大会は開催予定です。

埼玉県合唱連盟ではこの中止を受け、代替イベントとして5月2日「**彩の国女声コーラスフェスティバル2021**」を無観客で開催しました。講師は木下牧子、三宅悠太、横山潤子先生の三人。「おかあさんコーラス大会」の名称を使うわけにはいかなかったために生まれた「**女フェス**」は苦心のネーミングでした。7月に行われる関東大会への代表選出は抽選で決めます。

余談ですが、この抽選方式について埼玉県内では以前から賛否両論があります。コンクールとはちがうのだから、いつも同じような団ばかりではなくどの団にも出場チャンスを与えたいとか、巧拙で選んでいる他県から、埼玉はレベルが低いと見られるのが困るとか、立場によって様々です。おかあさんコーラスは歌だけでなく、衣装や振り付けなどでも魅せてくれます。天は二物を与えたもう…！